

★アンケート回収106名

年代 10代：0名 20代：15名 30代：20名 40代：34名 50代：25名 60代：11名 70代以上：0名

性別 男性：40名 女性64名 なし：2名

職種 介護福祉士：33名 介護職14名 看護師：7名 保健師：1名

介護支援専門員：16名（うち6名が介護福祉士にも○）社会福祉士：3名 セラピスト：7名

栄養士9：1名

その他：19名（障害者支援員、学生、会社員、事務、保育士、介護食宅配業者、福祉用具専門相談員）

なし：1名

★講演会の内容について

非常によかった：91名 良かった：10名 ふつう：1名 不明：4名

良くなかったは0名

★講演会の感想

行政と手を組んで地域を支える。本当に感動です。その一員になりたいと思いました。
地域包括ケアのヒントが見えた気がする。自立支援についての「私らしさ」の意味が本当に心に響いた。
すごく良いお話が聞けました。お疲れ様でした。ありがとうございました。
加藤先生の言葉がはっきりと聞き取れないことがあったのは残念です。ボランティアとして地域に出てもらって、高齢者が生き生きと過ごせるような支援をするという発想がとても良いと思いました。
これからの事業所だと思いました。なかなか自由にできないのが現状。やはりトップがしっかりと勉強していることがよく分かりました。
利用者に対するかかわり方をもう一度考えることができました。
認知症ケアについてもっといろいろな例題や対策等をお話してほしかったです。加藤さんのお話はとても理想に近い介護の形だなと感動しました。
大きな事業所をどう変えようかと考えさせられました。
こうれ視野は支援してく、やりたいことをやりたいときに支援して介護。ビデオ、話を聞いて、高齢者、職員がやりがいや充実さ楽しさが伝わりました。今は、介護しながら書類、管理などもあって、業務になって自身もなく心に余裕が持てないです。スタッフもギスギス感じます。昔みたいにやりがいを感じ、充実した気持ちもってみなんな、利用者、職員スタッフが充実し、楽しい職場にするには、工夫、前向きになる方向があったら知りたいです。今は怖くて職場の人で本音で相談できる人がいないです。
地域によってできる事、やれることは違うので、やりたいことがうまくできないことも多く感じるのですが、今日の講演会を聞いて、こういう現場が多く増えていけばいいなあと感じました。
私たち施設でも今一度ケアを見直していきたいと思います。
自分の介護の初心を忘れないで利用者さんや高齢者の方々に何ができるか考えることが大切だと気づけた講演会でした。
専門職としてのゴールが明確になりました。人として当たり前のことをする。それをさりげなく専門知識を生かすこと。そして「利用者様」から「○○さん」へ戻してあげることが私の仕事だと再認識できました。具体的な方法はまだ見えていませんが深く考えていきたいと思います。

「当たり前のことを当たり前に行っているだけ」という言葉にグッときました。度のスライドも常に笑顔があふれていて、みんな自信にあふれているように感じました。私は老健として、もっと地域に出ていって、利用者が何かのため、誰かのために、何かができる取り組みができればいいな。と感じました。

手元も資料とプロジェクターの内容、全部入れてほしかったです。

本日を聞いて感じたこと、万田ことを1つでも行動に移していきたいです。

今までのケア、リハビリの中で、業務として関わっていないか考えさせられました。今後も自立支援を考えて、利用者が楽しく過ごせるようにしていきたいです。

改めて介護福祉士の役割って何だろうと考えさせられました。利用者を楽しませるのではなく、利用者が地域の人々を楽しませるのを支援すると、この講演会で知ることができ、これが私の目指す理想だなあと感じました。実際、行動に移すのは、新人社員としてまだ厳しいのかなと思うのですが、いつかは絶対に行動していきたいと思います。

介護とは？改めて考える講演会であった。

今あるケアに対し、利用者に合わせたケアをしたい気持ちはあるが、どうしても行政や上の人の目を気にして起こせていないと感じた。当たり前ケアを正解と思わず、自分で考えて行動したいと思った。

とても素晴らしい講演でした。話を聞くだけでなく、実際に施設に訪問してみたいと思いました。介護に対する概念が変わりました。今ある施設でできることはまず何だろうか。

主役は誰か？ということを考え、地域でどう楽しくかわる活動を利用者のか後一緒に楽しめるか…（何十年後の私のため 私たちのため）『楽しそう』『あの場所に行ってみよう』『あの人と一緒にいると楽しい』を目指していきたいと思いました。ありがとうございます😊

介護職だけでなく、セラピストもやりすぎだな…と。提供するだけでなく、いっしょにやる（チャレンジする）ことを大切に生活を豊かにしたいと思いました。加藤さんのお話、とてもワクワクしました。

一人称で考えたことが周囲の人に受け入れられ、実践して、認知症の高齢者の方々へ寄り添っていることについて改めて考えさせられました。

日々業務に追われる中で地域との関わり、利用者の立ち位置など考えたことがなかったので、見直すきっかけになりとてもいい講演会でした。

加藤さんの講演、とてもよかったです。ノートに書き留めておこうと書いているのですが、早口で書くのが追い付かない状況でした。それは少し残念でしたかな('\_')座長の話が長かった。時間厳守でお願いしたいです。（遠方から出勤しているため）

介護と科学を結びつけて考えられていた。よく介護職の離職率の高さが言われるが、今まで3Kとか給料の話とかと固定観念であったことに気づかされた。「役に立ちたい」と思って仕事についたが拘束の現場を見せられてやめていくという説明で、やめていく理由として気づかされた。

次の瞬間は会えないかもしれない。今でしょ。目の前の事。今、私は白寿の母に「あなたのお母さんに会いたいわ。お礼を言いたいわ。どんなお母さんかしら」と時々言われています。私はあなたが育てたように育てたのかな。講師のされたくないことをしない介護に同感です。7時間も腰かけていれるかなという疑問は日々感じています。交流人口を増やす。地域包括ケアが少しわかったかな。ありがとうございました。

自分は東京にある団地で、住民の方々を結びつけるためのコミュニティーカフェの開催を月に2回行っています。そのため、今回のタイトルにある認知症とは深いかかわりがあるといつわけではありませんが、今回の講演会はとても参考になりました。自分の理想としては、ちいきじゅうみんさん「が」行う地域活動を目指していますが、現状は地域住民さん「に」行っており、少しずつ住民さん「と」行うようにしています。自分たちはサークルとしてこの活動をしています、これからさらに充実させたいと感じました。

講演会とてもよかったです。自分の会社でこれできるのか？と考えることもたくさんありましたが、自分からやらないといけないので、自分でできることを考えていきたいと思いました。パネルディスカッションをもう少し時間があれば良かったのでは・・・

とてもいい講演会でした。今後の地域包括ケアの目指す具体的な取り組みだと思いました。

地域とのつながり、関わり、難しいのが正直なところですが、今日の講演会を聞いて原点を考えさせられました。自主的にできる、楽しめる「活動」を自分から発信できるようにしたい。

介護のつもりが業務になっていたと痛感した。介護職として何ができるのか…皆で考えなくてはいけないと思った。1対1のサービスでどうすれば何ができるのか考えてみたいと思いました。介護職を選び実習で老健、特養で実態を見てショックを受け訪問の道に入りました。中で認知症利用者の対応が困難です。地域とともに働いていけたら頑張れそうな気がします。お疲れ様でした。ありがとうございます。

理想の施設に見えますが、ここまでするには大変なご苦労や周りの理解、協力があつたんだろうなと感じました。今一、介護業界に踏み出せませんでした。背中を押してもらえた気がします。自分が何をされたらうれしいかを考えて取り組みたいと思いました。

その人のためと思ってやっていた事が、その人の自立を止めた、又その事に自分はケアをしてあげていたと自分の傲慢な気持ち（勝手な気持ち）に気づかされました。

型破りな事業運営を生で聞けて良かった。プロフェッショナルでは感じれなかったことがたくさんあった。

私は老健施設という立場ではあるが、参考になり気づかされることがたくさんあった。明日から変えていきたいと思う。

お年寄りではなく、お年寄りが（地域に）楽しんでもらうという言葉がとても印象的でした。

実際働いている職場はデイサービスで、体操はこの時間、入浴はこの時間、レクはこの時間にと、時間に縛られていて言い方は悪いがスタッフが利用者を振り回している感じ。本人のペースでやるって事が全くない感じ。今回の話を聞いて、別に時間にしぼる必要はないし、スタッフの人数が足りないからと言って、危ないから座ってなどマイナス発言は一切よくないんだと感じた。自立支援に向けたデイサービスなのに、なんでもかんでも抑制するのは×。もっともっと話を聞いて勉強したい

地域包括ケアについて、「高齢者を守る」という固定観念から高齢者に役割を提供し、活かしていただくことを学びました。逆転の発想ですね。

認知症の方に対する付き合い方の概念が180°変わりました。浦添市も加藤さんのような発想を持った介護職の方が増え、楽しい介護を実施してほしいなと感じました。

お話にあった事はそのまま真似はできないんですが、参考にして、近いことが自分の事業所で実行できると良いなと感じました。とてもステキなお話でした！😊

今までの自分の中での意識、考えを改める機会になりました。もっと、お年寄りの方の考え、意思を汲み取り、社会交流できるように支援で来たらと思いました。

高齢者が地域を喜ばせる、伝える、本来あるべき姿を再考させられました。とても良かったです。

私の父母への想いがよみがえりました。3年前；父 2週間；母 逝去 要介護4&3 あの時、私の兄姉妹、家族は介護施設にまかせきりだったのかな？父母は幸せだったのかな？

”人として入る”再確認できました。”やりたい”という気持ちがあっても、パートの立場で職員の許可をいただけないと何もできない…。報告相談も大切ですが、悪いことしていないのに、住民のためになるのに、通いの場ができない…こんなに関係作りができたのに入れない…。行政のパートをやめることを決めました。行政にいると何もできないんです。加藤氏が言う”活動”について考えてみたいと思います。ありがとうございました。

私が思っていた介護の現場とは違っていた。介護とは何かを考えさせられる内容だった。

加藤さんのお仕事ぶりを見て、とても良いなと思いました。地域に溶け込んでいることがよく分かりました。

加藤氏の話聞いて、私は介護職でケアをしていると思っていたのですが、業務という部分が大きくなっていったなと思いました。業務に追われて忙しい日々の中で、その人らしい利用者のできることを自立してもらえるように、声かけ促しで動いているつもりでしたが、この方がしたいこととして嬉しいことは何か…という考えをもとにできていなかったなと思いました。嬉しく思う、頼りにされていると、自ら動いて喜んでくれるような中で、職員間とも良い職場づくりをしたいと思いました。

とても良かったです。何もできていない自分が悲しくなった。もっとやらねばと考えさせられた。

皆が想像した「ステキな施設」を実現するとしたらどんな感じになるのか、絵というか、目に見える形として作ってみたいと思いました（ジオラマとか）

支援とは何か、地域交流と聞いけど実際はどんなものなのか分かりませんでした。講演を聞き自分にも一歩踏み出せることばかりでした。この貴重な時間に参加できたことはとてもこれからの自分にとって大切なものとなりました。

すごく良かったです。心に響く内容の講演会でした。気づかされる部分も多く、仕事のあり方、利用者様との向き合い方について振り返りの材料にできたらと思います。ありがとうございました。

自立支援サービスを改めて考えさせられた。介護保険制度の中でも挑戦的な取り組みをしていきたい。

認知症ケアとは何か？加藤さんの話を聞き「そうですね！そうなんですよ。」と正直思いました。自分のおばあさんと何ら変わらない施設にいるおじいさんおばあさん、つい、仕事としてケアをしていた自分。人として大先輩から教わることもあるはずなのに、時間に追われていたケアをしていた。人としての普通の関わり…再認識です。

加藤さんの人としての介護、改めて考えさせられました。ありがとうございます。スタッフへ伝えたいと思います。

地域密着型通所を運営していますが、地域とのかかわりがまだまだ形ばったもの、型にはめられたものでしかない、きっと自然な感じで関われるようになればいいなと感じました。

周りから“困った人”として扱われていた人が、「おたがいさん」で毎日を過ごすことで、介護度が下がったことに驚きでした。今日受講し、「その人の生き甲斐とは何か」考えさせられる講義でした。とても良かったです。

認知症ケアをもう一度考えてみます。いい先生でした。

今日の講演会で多く感じさせられましたが、何事も主役は「利用者」は分かりやすかったです。

講演会を聞いて自分の職場はどうなんだろうという考えさせられました。長い時間座りっぱなしで、利用者さん逆にすごいなあと思って、自分にはこんなに長い時間座ってはいられないと思いました。自分自身ができないことを利用者さんにさせているんだなあつくづく思いました。

グループホームに勤め5年、なんだか介護職が嫌になりやめたいなあと思っていたが、話を聞いてやっぱり介護職って言いな～ってやめるのも少し考えてみようと思います。ありがとうございました。

素晴らしいお話をきけてありがとうございます。

普段疑問に思っている気持ちを加藤さんは話してくださいました。研修生が来るから大変な現場は見せないようにと思って、現状は大変な現場を見せ、知ってもらうしかありません。もっと利用者の希望、要望に応えられる現場にするには職員は利用者とコミュニケーションをとる必要があるが、事柄がないとコミュニケーションも取れないので、コミュニケーションをとるには、環境づくりのリセットを現場はしていくべきだと改めて考えさせられました。また、講演会があれば伺いたいです。大切な時間を講演いただきありがとうございました。

実母が認知症を患い約5年で車いす生活になりました。73歳ですが保続が多くなりパーキンソン症状もひどくなり現在老健に入っています。義理父も66歳でアルツハイマー2年で老人ホームに入所しています。私は実母を主に看っていますが、施設のスタッフのおむつ替えなど人によって差がありリハビリパンツから尿が漏れ、車いすのシートまで濡れているときがあります。プロとして現場に立っている以上、責任をもって利用者に関わってほしいと常日頃思っています。介護の現場を知りたくて本日参加しました。加藤さんのお話を聞いて今お世話になっている施設のスタッフ全員がそういう気持ちになってほしいと心から思いました。「お互いが学べる地域」という言葉を私自身も大切にしていきたいと思いました。

役割分担ではなく、役割連携の視点で取り組む。主役がだれか？支配者ではなく、ともにある人として、介護の専門職が活躍してほしい。もっとできることがあることを実感しました。うらそえ介護福祉士会のご活躍期待しています。

理想とする介護事業所の形を見せて頂きました。中には参考にしたい内容もあり、とても満足しています。地域密着型サービスを地域包括ケアとして実践できることを目標にしたいのですが、中々実践できていない現状があります。できる力を各事業所ができるような意識改革をしてほしいです。事業所代表、管理者の意識を変えていくことが第一歩かと思いますね。-浦添市外からの参加です。

私たちもお年寄りから教えていただいたり一緒に行くことで笑顔が増えたりと、楽しく過ごしている日もあるが、まだまだだなと思ったことも多く、それで良かった、楽しかった、ここでいいと思える様にサポートできるようにやっていく。

とても良かった。楽しく見えました。

主役話誰か？を改めて考えさせられました。地域ケアの可能性をイメージできたこと、「大事なものは世論を変える事！」の加藤さんの力強い言葉に福祉、介護の業界の輝く未来に貢献したいなあと思いました。

加藤さんのお話がとても楽しく身にしみました。「当たり前のこと…」自身に関わる仕事でも見失ってはいないか思っているよりももしかすると難しいことなのかもしれないけれど、向き合っていきたいです。

職員のモチベーションの維持や教育、管理等について、マネジメントの対応等を聞きたいなと思います。これまでに固まってきた考え方（利用者もスタッフも）を変えていくための第一歩はどんなことなのか？

とても素晴らしい話が聞けてよかったです。

日々の業務をこなすことに気がついてしまい、介護とは何かという事が見えなくなっていました。利用者らしい生活ができるようお手伝いさせて頂く目標を思い出すことができました。明日から少しずつ近づける動きができたらと思えた時間でした。

次回も参加したいと思いました。自分が考えていたケアの講演会でした。良かったです。行動し、活動したいと思います。

NHKの仕事の流儀を見て認知症の方の笑顔、その人の人生そのものに寄り添って、その人を主体にした関わりがなされ、地域との関わり（子どもたち、住民）が自然にできていたのが感動でした。加藤さんの「人としての関わり専門性を発揮する」このことは私も同様に考えています。精神・知的障がい者のグループホームを運営しています。看護職・看護教員をしてきて今、障がいを持っていても地域で生活できる様に関われたらという思いで関わっています。新たに勇気と力をもらいました。ありがとうございます。

地域での活動を目指していますが、私も地域で何？っていうところにいます。でも長い間、病院に勤め、結婚を機にやめました。その後は子供に合わせた（成長）仕事を選び選び変化させてきました。人が言うイメージの「看護師」とは違うところで私が持っている何かを見つけながら一緒に成長できる地域づくりをするため（寄り添い）大切。今までと違い対象のやれることを探すことへの取り組みを少しでもいいからやりたいと思っています。その中で講演会に参加でき貴重なものになりました。

『あなたの人生に付き合えることができ良かった』とゆう人生を送りたい😊♡

感性が違いすぎます。あまりにも自然体でやられているのがすごく不思議な感じがします。生い立ちに影響があるとしたら知りたいです。介護に携わる人は愛情素晴らしい人が多いと思います。できれば全国各地で改善を望む事業所があれば出向き改善してあげるビジネスでもいいのでやってほしい。日本の将来のためにぜひお願いします。

とても勉強になりました。今の職場で何ができるのか考えて行きたいと思いました。